

南アフリカ為替週報

2022年9月22日 | みずほ銀行欧州資金部

〈過去1週間の動き〉 (9月15日～9月21日)

USD/ZAR: 17.4400～17.8150
ZAR/JPY: 8.07～8.22 (参照値)

過去1週間の南ア・ランド相場は、軟調推移が先行したものの、19日以降底打ち。その後、対円では若干の反発も見せたものの、対ドルでは2020年月来の安値圏に膠着した。通貨市場全般では、ウクライナ東部・南部の、ロシアが実効支配する地域で、23～27日に、ロシア編入の是非を問う住民投票を実施するとの報(20日)や、プーチン大統領が部分動員令(予備役30万人を徴兵)を発した事(21日)などが注目を集め、ユーロや中/東欧通貨、ルーブルなどが売り込まれたが、ランドへの影響は読み取れなかった。ランド軟調の先行は、14日以降、南ア電力公社(Eskom)による計画停電が従来以上に深刻化したことが嫌気された値動きと考えられた。同社によると、発電施設の想定外の故障のために、当初予定された2,000MW規模の計画停電を4,000MW規模に拡大せざるを得なくなったという(注1)。19日には、外遊中(注2)のラマポーザ大統領が(国連総会参加の)日程を切り上げ、電力不足に対処するために急遽帰国したが、その決断がランド反発に寄与したとも考えられなかった。国難を放置して外遊を続けるよりは正しい判断だったかもしれないが、大統領が陣頭指揮を執ったからと言って解決に向かうような問題ではそもそもないはずだからだ。21日発表された南ア8月CPIは7月の当該指数からの減速を示したが、これは市場予想に沿った内容で、ランドは特段材料視した様子を示さなかった。その後、注目された米連銀公開市場委員会は、市場の予想通り政策金利(FF金利誘導目標水準)を75b.p.引き上げ。ただし、今次利上げ局面の政策金利の天井(23年予想)が6月時点の3.75%から4.625%へと大幅に引き上げられたことから、ドルはまず全面高に。ランドも対ドルで17.7850まで急落したが、直後に17.5300まで急反発し、結局、利上げ発表前よりも水準を若干切り上げた。

〈過去1週間に発表された主要経済指標等〉

月日	GMT	指標	期間	発表	予想*	前回
9/21	8:00	CPI(前年比)	8月	+7.6%	+7.6%	+7.8%

(*予想はブルームバーグ社予想中心値)

〈向こう1週間の見通し〉 (9月22日～9月28日)

USD/ZAR: 17.450～17.850
ZAR/JPY: 8.05～8.25

向こう1週間の南ア・ランド相場は、足元2年半ぶりの安値圏における膠着を予想。22日の南ア準備銀金融政策委員会では、+75b.p.の利上げが予想されており、その限りであれば、ランドの反応は限定的となろう。南アCPIは引き続き同銀誘導目標(+3～6%)を明確に上振れており、同委員会が積極的な物価抑制姿勢を緩める可能性は低いものと考えられる。一方で、南ア物価は7月に(前年比+7.8%で)天井を打ったとの見方も広がっており、従来の南ア準備銀の姿勢からは考え難いことではあるものの、万が一、利上げ姿勢の後退を示唆するようなことがあれば、ランドに売り圧力を加える可能性は除外できない。とりわけ、上述計画停電の常態化が同国経済の大きな足枷になっている現状で、南ア準備銀が多少なりとも景気浮揚に軸足を移す可能性は想像できなくもないだろう。別の懸念材料として、ゴドングワナ財務相が、21日、「金融活動作業部会(FATF)の監視(観察)対象国(グレイリスト)入り回避は困難かもしれない」と述べたのは気掛かり。FATFはマネーロンダリングやテロ資金供与対策のための政府間会合だが、その対策が不十分と判断(グレイリスト指定)されれば、国としての「評価(評判)」を落とすだけでなく、投資資金流出や各種取引・管理手続きなどの費用増を招く恐れがあるという。来年のグレイリスト入りの可能性は、少なくとも数か月前から懸念されていたが、南アには「今年10月まで」の改善が求められていた。他に、南アの主要輸出産品であるプラチナが、9月初以降、堅調推移を見せているのは、ランドにも好材料と言えるはずだが、足元ランドの値動きに好影響している様子は今のところ読み取れていない。

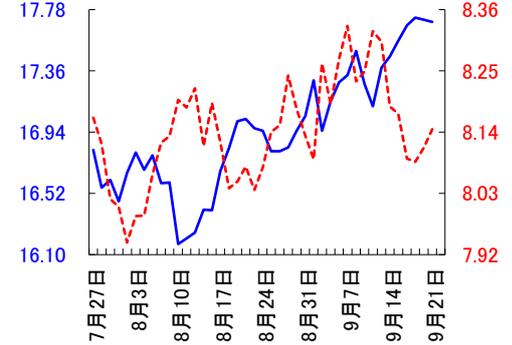
〈向こう1週間に発表予定の主要経済指標等〉

月日	GMT	指標	期間	発表	予想*	前回
9/22		南ア準備銀レボ金利			6.25%	5.50%

(*予想はブルームバーグ社予想中心値)

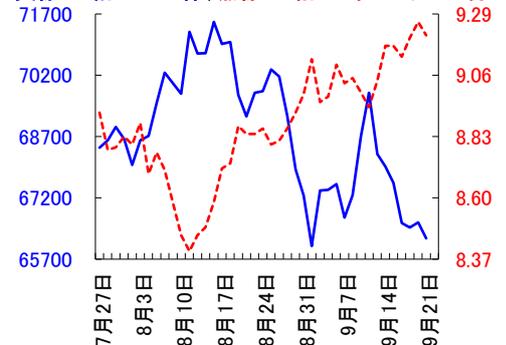
為替相場の推移(資料:ロイター)

実線/左軸:対米ドル、点線/右軸:対円



株式/長期金利の推移(資料:ブルームバーグ)

実線/左軸:JSE全株、点線/右軸:10年スワップ金利



南アフリカ関係主要経済指標

政策金利(レボ金利)		5.50%
長期金利(10年スワップ)	9月21日	9.210%
株価指数(JSE全株)	9月21日	66208.71
成長率(GDP/前年比)	Q2	+0.2%
経常収支(ZAR)	Q2	-87bn
失業率	Q2	33.9%
消費者物価(前年比)	8月	+7.6%
小売売上高(前年比)	7月	+8.6%
製造業生産(前年比)	7月	+3.7%
鉱業生産(前年比)	7月	-8.4%
貿易収支(ZAR)	7月	+24.8bn
金価格(ロンドン17:00)	9月21日	1667.62

(注1) その後、6,000MW規模まで拡大された計画停電は、19日の深夜(24:00)から5,000MW規模に縮小された

(注2) 16日にワシントンでバイデン大統領と会談、19日にはロンドンでエリザベス女王の葬儀に出席

当資料は情報提供のみを目的として作成したものであり、特定の取引の勧誘を目的としたものではありません。当資料は信頼できると判断した情報に基づいて作成されていますが、その正確性、確実性を保証するものではありません。ここに記載された内容は事前連絡なしに変更されることもあります。投資に関する最終決定は、お客様ご自身の判断でなさるようお願い申し上げます。また、当資料の著作権はみずほ銀行に属し、その目的を問わず無断で引用または複製することを禁じます。